

報 告 「デジタル化で変わる社会 求められるボランティア像!？」  
アンケート結果から見たこと

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会 代表理事 田中 正治氏

司会

「本日の活動報告は、9～10月にアンケートを皆様方にお願ひしました。  
その集計・結果を NPO 法人文化ボランティアとびうめの会 代表理事の田中正治から報告いたします。」

【報 告】

今、司会から紹介がありましたように、先日「デジタル化で変わる社会、求められるボランティア像」と題したアンケートを皆様方にお願ひしました。

ご記憶に新しいか、と思ひますが、そのアンケート結果をご報告いたします。

皆さまのお手元に三枚つづりの資料をお配りしております。これに基づきましてお話をさせていただきます。

まず一枚目に書いておりますように、アンケートは、県内の文化ボランティア約200団体にお願ひをしましたが、残念なことに、62団体、約3割強の回答に留まりました。

その概況を含めてご報告をいたします。

まず「文化ボランティア」とは、福岡県では次の5つの領域と考えております。

① 読み聞かせ(図書)ボランティア、② 街めぐり観光ボランティア、③ 美術・博物館ボランティア、④ ホール・劇場ボランティア、⑤ まちづくりボランティア です。

総じてボランティア団体は、若い会員が少なく、また新たな加入者が少ない傾向があり、当然ながら高齢化現象が著しいといえます。

アンケートは、[総論] 問1～3と [デジタル化に対する個別・具体論] 問4～9に分けて問ひました。

[総論] 問1で、デジタル化は必要かどうかを問ひましたが、必要である、必要性は分かると答えた団体が、回答者の約半数近くを占めております。一方で対外的な連絡事項にはデジタルを使うが、読み聞かせボランティアでは「生の声」と「絵本をめくる音」で感性は生まれる」との回答もあり、デジタル化が難しい、あるいはそぐわないとの事例も示されました。

[デジタル化に対する個別・具体論] では、活動にPCやスマホ等を活用している団体が8割以上で、SNSを使っている団体ではLINEの利用、Web会議にはZoomの利用団体が多いのが伺えます。

結論として、今回アンケートに回答した団体は、デジタル化に既に対応している団体と、今後予定するなどデジタル化に興味を持っているボランティア団体であるといえます。

なお、具体的なアンケート結果は、添付の資料や、とびうめの会のホームページにも記載してありますのでご参照ください。ホームページアドレスは、添付資料に記載してあります。

## デジタル化で変わる社会 求められるボランティア像！？ アンケート結果から見たこと

### Ⅸ、デジタル化社会の到来

最近のデジタル化の進展は目覚ましく、社会環境や生活環境が大きく変わりつつあります。しかもコロナ禍がそれに一層の拍車をかけ、私たちの生活や働き方が時間と場所を特定しないものになっていくのでは、と予想されます。

この生活環境の変化から私たちの生活に時間的余裕と心のゆとりが生まれれば、文化活動の拡大や深化が進み、さらにボランティア活動の必要性・存在意義も増すものと期待されますが、果たして現在のボランティア団体はどのような実態と想いを抱いているかを探った。

### Ⅹ、アンケート調査の概要

- ・ 実施期間 : 2022年9月21日～10月 5日
  - ・ 回答者数 : 62団体 (回答率: 約3割、内 読み聞かせボランティア 25団体)
  - ・ 実施主体 : 福岡県、NPO法人文化ボランティアとびうめの会
  - ・ 回答者の範囲 : 県内の文化ボランティア
- ※ 福岡県では、次の5つの領域に関わるボランティアを「文化ボランティア」としている。
- ①読み聞かせボランティア、②街巡り(観光ガイド)ボランティア
  - ③美術・博物館ボランティア、④ホール・劇場ボランティア、⑤まちづくりボランティア
- ・ アンケート実施方法 : 郵送とメール送信

### Ⅺ、デジタル化のアンケート結果から

アンケートは質問数9個で、総論と具体的項目とに分けて問うた。

#### 【1】ボランティア団体は高齢者が多く、デジタル化に苦慮

ボランティア活動の分野別における特性(デジタル化対応の実態)を探ったが、全回答数が少なかったことと、分野毎の解答数に偏りがあり正確な推論は出来ない。ただ「読み聞かせ」を始め「その他文化ボランティア」に共通した課題として「メンバーの高齢化」があげられ、高齢化は、リモート対応など新しいシステムや機器対応に苦慮しているのがわかる。

#### 【2】SNSの中のサービスは、Lineの利用者が多い

ボランティア団体内外の連絡を始め、日頃の活動にPCやスマホ等を利用している団体は、アンケート回答者の85%に及ぶが、SNSのサービスを使っている団体は回答者の5割にも満たない。使っている団体のSNSサービスは、ほとんどがLineである。

Lineは、無料で簡単と使い勝手がよく、日頃から団員の多くが使っているなどメンバー同士の一斉連絡に使えるなど、利用者に好まれているようだ。

#### 【3】Web会議利用は、Zoomミーティングが多い

Web会議は、アンケート回答団体のうち約3割が利用している。使っているソフトはZoomがほとんどで、使い方が簡単という使い易さや短時間だと無料であるなどの利点からZoomの利用者が多い。

### Ⅻ、考察

先に行ったアンケートでは、回答者が僅か3割に留まった。デジタル化に対して予想外に不人気であることや、ボランティア団体にとって期待感は案外低いと予想される。読み聞かせボランティアのメンバーが「デジタル化は、活動に係る内外の連絡事務には利用できるが、それ以外は無理である」と語っていることから伺える。

※ アンケート結果の詳細は <http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-tobiumenokai/>で見られます。(とびうめの会 ホームページ)